

NEWS LETTER KUMAMOTO

2018.Autumn/Winter Vol. 114

■発行:一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団

〒860-0806 熊本市中央区花畑町 4-18 熊本市国際交流会館

■Publisher: Kumamoto International Foundation

4-18 hanabata-cho, chuouku, kumamoto city, 860-0806

TEL:096-359-2121/ FAX:096-359-5783

e-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp URL:http://www.kumamoto-if.or.jp/



第12回国際ボランティアワークキャンプ in ASO

第5回グローバルワークキャンプ in ASO

グローバルワークキャンプ タイ派遣プログラム



イヤーエンドパーティ2017

韓国ホームステイツアー

熊本市国際交流振興事業団では、毎年夏から年末にかけてグローバル人材の育成を目的とした高校生対象の「国際ボランティアワークキャンプ」や大学生等若い人材を対象とした「グローバルワークキャンプ」、そして隣国韓国との相互理解の促進や友好関係の構築を

目的とした「韓国ホームステイツアー」、在住外国人と市民との交流を目的とした「イヤーエンドパーティ2017」を実施しています。今回のニュースレターではそれぞれの事業についての取り組み、実施状況について報告させていただきます。

《特集》

- 第12回国際ボランティアワークキャンプ in ASO 活動報告・・・P2
- 第5回グローバルワークキャンプ in ASO 活動報告・・・P3
- グローバルワークキャンプ～タイ派遣報告～・・・P4～P5
- 韓国ホームステイ・ツアー事業報告・・・P6～P7
- イヤーエンドパーティ 2017 事業報告・・・P8

目次

Contents

- ちょっといわせてはいよ!・・・P9
「留学生と日本文化体験」
熊本大学国際交流サークル C3 部長 丸山 春樹さん
- 未来のために・・・P10
- 世界を知る～It know the world～・・・P11
青年海外協力隊 OB 竹田 憲弘さん
- ちょっと日本語/きふプロ
平成30年度賛助会員・・・P12

第12回国際ボランティアワーク キャンプ in ASO 活動報告

(開催期間:平成 29 年 8 月 8 日(火)~10 日(木))

第12回目を迎える今年度の国際ボランティアワークキャンプ(以下、ボラキャンと記述)は、昨年度熊本地震の影響により使用できなかった国立阿蘇青少年交流の家に会場を戻し平成 29 年 8 月 8 日(火)~10 日(木)2泊3日の日程で開催しました。

ボランティアワークキャンプは、例年前年度秋頃から、高校生実行委員(EC)を募り大会に向けての活動がスタートします。今大会は1月にキックオフを行いました。



(EC 会議の様子)

10人以上のECの集まりからスタートし、大会テーマや分科会等について話し合いが行われました。

第12回大会は、「Hello, Discovery ~世界を見つめて行動しよう~」をテーマとして掲げました。ボラキャンでは、学校の枠を超え、高校生と留学生、さらに今回はドイツ・ハイデルベルクからの高校生が参加し、普通の生活だけでは得ることのできない様々な人との「つながり」が生まれました。異なる価値観に出会い、新しい自分、または自分らしさを発見する機会になりました。また、グローバル化が進んでいる今、それぞれが世界的な見方を意識し行動することはとても大切なことです。今回のテーマにECがこのような思いを込めて取り組みました。

大会本番を迎えるまでの7ヶ月間、準備段階からECは議論を重ねてきました。時にはお互いの意見でぶつかり、時には笑顔で認め合い、いくつもの壁にぶつかりその壁を乗り越え少しずつ準備が進みました。大学生や大人達の意見を聞きながら段々とやりたい事が形になっていき、数ヶ月前まで知らなかったもの同士が学校の垣根を越え互いにひとつのものを作

り上げる頼れる仲間となり成長しました。今回の活動で普段の学校生活では経験できない多くのことを体験し、学ぶことができたのではないのでしょうか。



(事前合宿の様子)

期間中のプログラムについては、『防災』『国際医療』『食』『伝統文化』『ボランティア』『多文化共生』『self-realization-自己実現-』の7つの分科会に別れての活動、外国人参加者をはじめ参加者全員との交流を深める全体交流会(キャンプファイヤー)、様々な活動家の話しを聞き自分の未来について考える未来職道を開催しました。キャンプファイヤーについては、自然の中で、火を囲み、ゲーム等を行いながら楽しい交流が出来たようで、参加者皆、笑顔が絶えないひとときでした。分科会についても7つのテーマに分かれ、それぞれの分科会においてECを中心に参加者それぞれが考え、アイデアを出しあい、まとめ上げ、最終日に立派に活動報告を発表することが出来ました。

大会期間中、途中上手く進められず、苦やしさを滲ませたECもいましたが、夜も実行委員同士互いに反省点を補い合い最終的にはこれまで頑張ってきた達成感を感じるものになりました。最終日には阿蘇神社を視察し、参加者同士で記念写真を撮影したりと楽しく交流したりしました。ECの中には、人前で話すことが恥ずかしく苦手だったけれどもECとして活動することでいつの間にか人前で自分の意見をだせるようになり自分自身の弱いところを克服できたと嬉しそうに大会終了後伝えにきてくれた高校生もいました。高校生それぞれが何かしら自分の中での変化、成長を感じてもらえたらこの人材育成を目的としてボラキャンを開催した意義があったのではないかなと思います。

今回のアンケートでは、「また参加したい」「来年は実行委員として中心で参加したい」などの声もありました。今回も次につながる立派な大会が、学生達の力で作り上げ開催できました。



(全体報告会の様子)



(参加者全員で)

現在、すでに次回第13回のECが集まり準備をすすめています。今大会を経験した実行委員や一般参加者が中心となり実行委員として次回大会はどのような大会に作り上げていくか大会目的やテーマを話し合いながら活動中です。次回大会はどのような色を出してくれるのでしょうか。四苦八苦しながら頑張っています。これからの展開が楽しみです。

第5回グローバルワーク キャンプ in ASO 活動報告

(開催期間:平成29年8月15日(火)~18日(金))

平成29年8月15日(火)~18日(金)の3泊4日間で「第5回グローバルワークキャンプ」を開催しました。グローバルワークキャンプ(グロキャン)とは日本人学生50名、外国人学生50名の合わせて100名の学生が3泊4日の合宿形式で交流する中で様々な社会問題について学び、考え、意見交換を行う分科会活動を主な活動とするワークキャンプです。第5回目となる今大会についても、大学生実行委員(EC)による話し合いが前年の秋から準備が進められました。ECの中には、前年度の実行委員として活動してきた学生、第4回大会に参加者として加わった学生、そして、



(第1回EC会議)
〔事業概要説明会〕

初めてのグロキャンの活動をECとして参加する者13名が集まりました。3泊4日の大会期間中のプログラムとともに、分科会活動のテーマや、活動内容について、話し合いを重ねました。

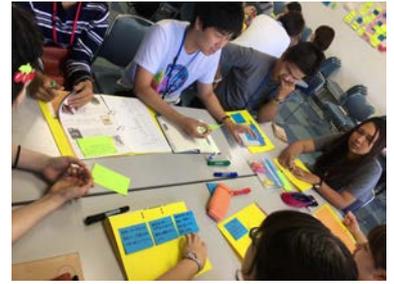
プログラムや分科会の活動内容については、「連携推進員」の大学や国際交流・協力団体の皆さんアドバイスをいただき、さらに良い内容へと高めて行くことができました。

今年は「広がる世界、広げる未来」をテーマに、メインとなる分科会活動の他、大会初日の基調講演、参加者同士が仲良くなるための交流会、自分の将来について考えるきかいとなる「ユメノトピラ」、そして会場となった阿蘇について学ぶ「阿蘇学」と様々なプログラムを行いました。

基調講演では、海外で映画俳優・監督として活躍されている梶尾潤一氏に第2次世界大戦時にユダヤ人を救うために日本へのビザを発給した杉原千畝氏のドキュメント映画を作るいきさつや、活動場所を海外に求めたきっかけ、そしてその為の苦労や努力したことについて話しをしていただきました。梶尾氏の体験談は、参加した学生が、今後、海外での活動を考える際の、勇気になりました。

2日目、3日目は2日間を使い、「経済格差」、「環境」、「平和」、「ボランティア」の4つのテーマに分かれた分科会活動です。ECが取り上げた社会問題について、

問題提起を行い、それについてみんなで学び、考え、意見交換を行います。立場や文化背景の違う参加者が自分の考えを発表し、他の人の意見に耳を傾け、それぞれにとって最適と思われる解決策を模索するのです。分科会の中には座学だけでなく、



(分科会の様子)

シミュレーションやゲームを使って社会問題を模擬体験したり、実際に現地を訪問するフィールドワークを取り入れたりするなど、それぞれの分科会によって、その内容は変化に富んだものでした。

社会問題の解決策自体よりも、問題の解決に取り組む姿勢や自分とは違った意見を持った人と接すること、



(全体報告会の様子)

そしてそれらの人とのコミュニケーションを図ることで学生は「グローバル人材」に一步近づけたのではないかと思います。

大会終了後に参加者全員で会場となった阿蘇を知るために草千里を訪れ、雄大な自然とこの景色を作った阿蘇を感じながら昼食をいただきました。また、昨年の熊本地震で大きな被害を受けた「阿蘇神社」を訪れ、地震の被害とその後の復興の様子を目にしました。

グロキャンは今年度も文部科学省のプログラムの一環として開催しており、例年だと、この夏の活動で終了となりますが、今年は特に、国内プログラムの他に、日本人学生を海外へ派遣しました。

〈4, 5ページを参照〉

今回のタイ派遣プログラムを始め、この「グロキャン」の活動報告を様々な機会でも多くの人々に知ってもらいたいと考えておりますので、人が集まる場所やイベントの中でこれらの話を聞きたいと考えておられる団体や個人の方がいらっしゃいましたら、お気軽にご相談下さい。

第6回のグローバルワークキャンプが2018年8月に開催されます。次回のグロキャンに向けて、新しい実行委員会による話し合いが進み始めました。新しい実行委員によるグロキャンがどうなるかこれから半年間、楽しく、学びの多いプログラムになるよう学生と一緒に試行錯誤しながら考えていきたいと思ひます。次回のグロキャンもご期待下さい。

グローバルワークキャンプ～タイ派遣プログラム報告～ ～北部タイ・チェンライの山岳民族アカ族の村を訪ねて～

(開催期間:平成 29 年 9 月 6 日(水)～12 日(火))

《はじめに》

第5回グローバルワークキャンプでは阿蘇青少年交流の家で開催した国内プログラムに加え、タイへの派遣プログラムを新たに実施した。9月6日(水)に福岡空港を出発し、5泊7日の行程で、熊本大学、熊本県立大学、熊本学園大学、熊本高等専門学校および大分の日本文理大学の学生8名と引率者3名の計11名が参加した。

参加者は、それぞれに異文化理解、コミュニティ開発、フェアトレード等のテーマをインターネットで調べたり、専門家より聞いたり事前学習を行い、国内プログラムでは来日したミラー財団*の若いボランティアスタッフと交流を図って準備した。

《行程》

行程は次のとおりで、現地の人たちと自然と多く触れあうことを重視した。

9月6日	水	福岡空港発(バンコック経由) チェンライ空港着	ミラー財団泊
9月7日	木	(午前) オリエンテーション (午後) ユースック村へ移動、村内見学 (夜間) アカ族伝統舞踊体験	ユースック村泊
9月8日	金	(午前、午後) 小学校訪問 (夜間) アカ語学習	ユースック村泊
9月9日	土	(午前) 植林活動 (午後) 小川の爆作り (夜間) 村民との交流会	ユースック村泊
9月10日	日	(午前) 村の子どもとお別れ交流 (午後) チェンライ市街視察	ミラー財団泊
9月11日	月	(午前) 振り返り会 (午後) カレン族村視察 チェンライ空港発 (バンコック経由)	磯内泊
9月12日	火	(午前) 福岡空港着	



《オリエンテーション》

現地に夜到着、翌日に受入団体のミラー財団の伊能さくらさんよりタイの山岳民族の状況や今回の活動全般について説明を受けた。山岳民族もタイの国民ではあるが、昔は国境をまたぎながら自由に移動しながら自給自足の生活を営んでいた。ところが、タイ政府による開発政策やグローバル化に伴い、彼らの生活が影響を受け変化し、課題がでてきたのです。いよいよ始まる活動に緊張感と高揚感を覚えた。

《アカ族のユースック村》

活動の中心となったユースック村は、ラオスとの国境付近にあり、村民が500人程の小さな村。昔ながらの竹で作られた高床式の家や、比較的新しいコンクリート作りの家などが見られ、周りは壮大な自然に囲まれていた。村の小学校ではアカ族、モン族、中国系の

子ども達が一緒に勉強し、授業はタイ語で行っていた。(ホームステイしたアカ族の家庭ではアカ語が話されていた。)交流では、私達もタイ語で自己紹介し、子ども達に簡単な日本語を教えたり、着物や折り紙の日本文化体験、風船を使ったゲームをしたり、元気いっばいの子供達はとても人懐っこく、簡単なタイ語やジェスチャーを交え、楽しい交流となり、貴重な異文化体験となった。

翌日は、ボランティアワーク。午前中は村民50人と一緒に急勾配の丘陵に600本の



(村人とのダム作りの様子)

苗木を植林、午後は小川の堰作りを行った。村民達は高齢者が多かったが、とても元気だったのが印象的であった。

堰づくりでは、竹と土を材料に原始的ではあるものの、自然からものを作り出す昔ながらの知恵と工夫が活かされていた。上記の他、伝統衣装を着て、キャンプファイヤーを囲んでの民族舞踊体験など、アカ族の文化を肌で感じる事ができた。現在では、村の若者が民族衣装を着る機会が減ってきたそうで、私たちのような外国人が来ることで、このように文化を披露する機会は、村民にとっても彼らの尊厳と誇りにつながっているとのこと。村での最後の夜は、村長さんとの夕食会。近年のグローバル化で、村の若者が学校や仕事に都会へ出て行き、伝統文化継承や行事存続の危機、高齢化問題、後継者不足による農業の衰退、更には、村そのものの存続の不安もあり、日本が抱えている課題に似ており強い共感を覚えた。

《タイ派遣プログラムを終えて》

TVもなく携帯も使えない環境で、欲しいものがすぐ手に入る日本と比べるとかなりの「不便」を感じる生活でしたが、「不便」と思える生活の中には守り続け

なければならないモノが多くあることに気付かされました。そのことは私達に日本文化についてもっと知るべきということ、守り続け



(アカ族の住むユースック村)

ていくことの必要性を教えてくださいました。

アカ族のユースック村で学んだ経験は私達にとってこれまでの自分、これからの自分について考えるとてもいい機会になりました。今年から始まった海外派遣プログラムでしたが、プログラムを終えた学生たちの表情はまぶしく、現地に行かないと学べない多くのことを体験し吸収してくれました。今後も多くの学生にこのような機会を作り広い視野をもってもらうべく活動ができればと考えます。



《参加学生の感想》

熊本県立大学 文学部英語英米文学科 3年

戸田 千晴さん

「タイ派遣プログラム」このたった9文字の中には納まりきらないような、信じられないくらい内容の濃い1週間を過ごしてきました。同じ地球、同じアジアでありながらも、日本とは少し(時にはかなり)異なる環境で体験し、五感でかんじたこと全てが新鮮かつリアルで、今もなお心の深いところに刻み込まれています。



(写真中央が戸田さん)

このプログラムの中で特に私の印象に残っているのは、アカ族の村での生活です。山、川、澄んだ空気、おいしい山菜、パイナップル畑、竹の家、最低限の電気、温かい時間、人懐っこい子どもたち、優しさに溢れる村のお母さん、民族衣装、伝統、アカ族としての誇り。このような生活の中で見えてきたもの、それは今の日本での生活の中で忘れかけていた事でした。日本を含む先進国と呼ばれる国だけでなく、全世界に共通することかもしれないが、私たちは便利なモノと引き換えに何か大切な事を忘れてしまっていないだろうか。アカ族の村で感じた、人との信頼関係や生きている実感、自然との共生や思いやりの心。そして伝統や文化、誇りなど、これらを擁するために便利なモノは必要ないはず。このような人間として大事なことを落としてきてしまった世界は本当に発展した世界なのでしょうか。

グローバル化・近代化が進み、世界はこれからも変化し続けるでしょう。しかし、私たちは時には立ち止まり、本当に大切にしなければならないものを見直していく必要があると感じました。「グローバル化」とは何なのか、私たちが目指すべき世界とは何なのか、私が世界のために・誰かのために出来ることは何なのか。このようなことを真剣に考えたタイ派遣プログラムでした。

*ミラー財団:

1991年に、学生が中心となり演劇活動をおしてタイの社会課題解決を目的に誕生。現在、マイノリティである山岳民族が偏見や差別にあうことなく、それぞれの価値観を認め合いながら、共生して生きていける社会づくり活動を行っている。世界各国からボランティアを集めて幅広く活躍している。

ホームページ: <http://www.themirrorfoundation.org/jp/>

韓国ホームステイ・ツアー事業報告

(開催期間:平成 29 年 11 月 10 日(金)~12 日(日))



皆さんは隣国、韓国にどのようなイメージを持っていますか？ 焼肉、韓流スター、またはチマチョゴリなどでしょうか？熊本から韓国の首都ソウルまで飛行機を使えばわずか1時間程度、九州からは東京へ行くよりも近い海外です。しかし、いまだに日本人にとって、韓国は“近くて遠い隣国”のイメージがあるのではないのでしょうか？

私達熊本市国際交流振興事業団では近くて遠い隣国韓国をもっとよく理解し、人と人が繋がる交流を目指し、平成 21 年度から韓国ホームステイ・ツアーを実施しています。

平成 24 年度までは熊本県と姉妹提携をしている忠清南道などでホームステイや交流事業を実施してきました。平成 25 年度からはソウルを拠点に青少年交流活動や日本人滞在者向け韓国語教室、韓国人大学生をインターンとして日本へ派遣する事業等を行っている非営利団体アジア希望キャンプ機構（以降 ACOPIA）をカウンターパートに実施しています。

さて最初に韓国のイメージを書きましたが、現在では“K-POP”や“美容・健康”などが韓国のイメージとして真っ先にあがるのではないのでしょうか？

日本のテレビ等メディアにも多くのK-POPアイドル達が活躍しています。また韓国でK-POPメンバーとしてデビューを目指す多くの日本人の若者（多くは女性です）が、韓国へ留学し、語学を学びながらダンスや歌等を学び韓国の芸能事務所主催のオーディションを受けがんでいます。私達のカウンターパートである ACOPIA は韓国芸能界デビューを目指す日本人留学生のサポートも行っています。その ACOPIA の韓国芸能事務所のコネクション等を活用して平成 29 年度は交流プログラムに「K-POP 体験コース」を設けました。今後の交流活動を担う若い世代が参加してくれることを期待しました。そして、その目的どおり高校生・大学生・社会人の皆さんご参加いただくことができました。

私達の韓国ホームステイ・ツアーは幅広い世代の皆さんが参加できる様企画をしており、今回は「K-POP 体験コース」の他に「漢方体験コース」を設けました。韓国は普段の生活に漢方が根付いており、ソウル市内には昔からの漢方市場が数か所あります。また街中に

はおしゃれな漢方カフェなどもあります。韓国の美容法は漢方が取り入れられており、健康と美容を体験できるコースとして実施しました。

ではここからは平成 29 年度韓国ホームステイ・ツアーの概要を報告します。

今回は平成 29 年 11 月 10 日(金)~11 月 12 日(日)の2泊3日で開催しました。

【11月10日(金)】

福岡空港に午前8時30分に集合し、10時30分に出発、12時到着後仁川空港にて ACOPIA 職員やケニア人、フランス人等のインターン生の歓迎を受け、貸切バスにてソウル市内へ移動しました。途中「漢方体験コース」の参加者はソウルに残る伝統的な市場である京東市場や、韓国漢方の専門卸売市場であるソウル薬令市場を散策し



(チェギドン駅の漢方用品の展示)



(漢方カフェでティータイム)

ました。「K-POP 体験コース」はそのまま貸切バスにて多くの芸能人の卵達が在席し、卒業生が多く芸能界で活躍するソウル公演芸術高校へ移動し、高校内見学及び在席する学生との交流を実施しました。その後貸切バスにて漢南地区にあるいくつかの芸能事務所を回り、写真撮影や芸能人グッズ購入等を行いました。

午後7時30分頃ソウルの有名な観光地ミョンドンにて合流し、今ソウルで人気のチーズタッカルビの夕食を取りその後ミョンドン駅前にて各ホストファミリーと合流し、順次解散しました。今回も基本1ホストファミリーに1人だったので参加者の中には少し不安そうな表情を浮かべていた人もいましたが ACOPIA スタッフからも何かあればいつでも連絡して構いませんよ、と声をかけられ安堵の表情を浮かべていました。

【11月11日(土)】

この日は終日ホストファミリーとの自由行動でした。参加者達はホストファミリーと様々な体験を満喫して

いました。ホストファミリー宅で韓国家庭料理体験、自転車でのソウル市内散策、チマチョゴリを来てソウル市内散策や、ショッピングを満喫した参加者もいました。各ホストファミリーが温かく迎え入れてくれ、韓国的一般家庭の生活を満喫しました。

私は ACOPIA 代表から多くの日本人若者が K-POP デビューを夢見て単身韓国へ留学しがんばっている現状をお聞きし、改めて日本人の若い世代にとってはもはや韓国は“近くて遠い隣国”ではなく“近くて親しみのある隣国”に代わってきていると感じました。また外国でアイドルとしてデビューするという選択肢があることにグローバル化を感じました。その後新たにスタートしたフェアトレードコーヒーやくまもんグッズ販売等を行っている ACOPIA カフェ及びボランティアによる韓国語教室（日本人滞在者向け）を開催している ACOPIA スクールを見学しました。土曜日にも関わらず多くの方が韓国語を学んでおり、うちの熊本市国際交流会館で開催している「くらしのにほんご」と重なり嬉しくなりました。

【11月12日（日）】

午前 9 時、ACOPIA スクールに集合し、荷物を預け、「KPOP 体験コース」と「漢方体験コース」に分かれ活動を行いました。



(ACOPIA カフェ前で)

「漢方体験コース」は韓国にある世界遺産の一つである景福宮を訪問し、韓国王朝建築を眺めながら散策し、その後、景福宮近くに古くからある漢方や生活用品を販売している通仁市場を訪問しました。通仁市場は観光客を取り込む為、市場限定通貨を販売し、この通貨を利用して自分の好きな惣菜をプレートに取るコイン弁当を販売しており多くの観光客で賑わっていました。もちろん漢方薬を使った韓国薬膳惣菜もありました。



(漢方薬の展示)

K-POP 体験グループはいくつかのプロデビューをしている K-POP グループにダンス・レッスンをしているプロ講師より基本的な K-POP ダンスのステップ、動作等を 2 時間程度習い、本場の K-POP ダンス・レッスンを体験しました。



(ダンス・レッスンの様子) (ダンススタジオで講師と)

その後、弘大（ホンデ）に移動し、「漢方体験コース」と合流し、自由時間を楽しみました。その後空港へ向かい出国手続きを行い、18 時 45 分発の飛行機で福岡空港へ。20 時に到着し解散となりました。

今回の参加者からはホストファミリーが大変よくしてくださり、感謝しているとの声が多く聞こえました。各家庭で工夫を凝らしたおもてなしを受け、満足していました。このような普通の韓国人家庭の生活を体験し、交流し繋がるのがこ



(ホストファミリーの家庭でチマチョゴリ体験)



(ホストファミリーとの韓国家庭料理教室)

の韓国ホームステイ・ツアーの目的です。参加者達は帰国後もカカオトーク(SNS)などを
使い連絡を取り合っています。2泊

3日という短い時間でしたが、個人と個人が出会い、繋がることのできた貴重なプログラムだったと思います。このホームステイプログラムはアジア希望キャンプ機構のご協力なくしては成り立ちませんでした。あらためて御礼申し上げます。

平成 30 年 2 月 9 日（金）からは韓国・平昌（ピョンチャン）にて冬季オリンピックが開催されます。これを機に多くの日本人の人達が韓国を訪問し、文化・風習等を体験し韓国ファンが益々増えると思います。私達ももっともっと日韓交流が発展するよう熱く楽しい韓国ホームステイ・ツアーを企画していきたいと思

イヤーエンドパーティ 2017
事業報告
- Show me yourself ~個性を楽しもう~ -
(開催日:平成29年12月9日(土))

イヤーエンドパーティは、外国人と市民との交流を深めてもらうことを目的に例年開催している年末の大きなイベントです。また、このイベントはボランティアの活用、人材育成も目的のひとつとしており、KIF(熊本国際交流振興事業団)にボランティア登録している学生達を中心となりテーマを掲げ企画運営を行い、楽しいイベントになるよう一生懸命頑張りました。今年も9月頃から学生ボランティアが集まり、イベント内容について話し合いをスタートしました。テーマ決めから始まり、当日運営の



(学ボミーティングの様子)

司会や受付、配膳などの部門を担当するかを話し合いながら、どうしたら多くの外国人の方々に来てもらうことができるかを重点に話し合ってもらいました。宗教に関係なく食べることができる料理を準備するという意見や、外国人の人達と交流するにはどのようにしていくか等の意見が飛び交い、具体的にどのようにかたちにしていくか、交流のゲーム内容等が回を重ねるごとに話し合われていきました。高校生も10月、11月の活動となると、期末試験や模試等でなかなか参加者全員が集まることは難しかったのですが、会議日以外にも集まり、交流ゲームの練習などを行い積極的に取り組んでいました。

先ほども話しましたが、今回のイヤーエンドパーティでは、多くの外国人に来てもらえるにはどうしたらいいかを一番に考えプログラムを構成しました。ここ数年外国人の参加者が少ない年が続いていたのです。

1つの工夫として、昨年より多くの方が参加しやすいよう参加費を安く設定し、料理を様々な国のお店に出展依頼、安価な料金で販売を行っていただき多くの方々に本場の味を体感していただく試みを行いました。ほぼ全てのお店が完売しましたが、遅れて参加した方々へ料理が残っていなかったという問題や、ハラール



(食のブースでの販売の様子)

ル食が少なく分かり難かったという問題がありました。今年はそのような問題点を踏まえ、出店をお願いするお店にスタッフが数週間前から伺い、料理の品数や値段の交渉を行い、ハラール料理として、くまもとハラールフードさんより「ミーゴレン」「サモサ」、パキスタン・インドレストラン・タージさんより「チキンカ

レー&ナン」「チキンティッカ」「シークカカブ」、スリランカ料理をスリランカくまもとさんより「チキン&ポテトカレー」「フィッシュカタリス」等、オーストラリア料理をManlyさんより「ダチョウストロガノフ」、タイ料理をピントンさんより「春巻き」「バナナとあんこの春巻き」、その他中華料理として「ねぎ饅頭」等を販売していただきました。“この料理がこの金額で今日は食べることができるなんて!” “他の料理も美味しそうだから食べてみたい!” と、友達同士で何品か購入し、お互いで分け合い味を楽しむ方々もいれば、“美味しかったから”と言いつつもう一度同じ商品を買に行かれる方、“遅れてきたけど色々な料理を食べることが出来て良かった”と言いつつ友達とテーブルを囲んで食されていた方々もあり、昨年に比べると品数も増え、料理の数も多く準備してきていただいたおかげで、十分に味わう事が出来参加者の方々には満足していただけたかと思えます。

ステージに関しては、例年演奏家を招きステージを盛り上げていただいていたのですが、今年は志向を変え、外国人の参加者も楽しんでもらえるような、様々な国の個性ある音楽を楽しんでもらうという発想から、様々な国のダンスや歌などのステージを多く披露してもらうプログラムの構成としました。オープニングに九州測量専門学校ネパール人留学生によるネパール舞踊を披露していただき、民族衣装で着飾っ



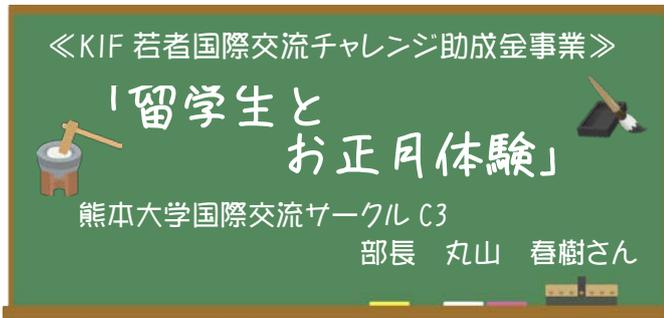
(上:ネパール舞踊)

(下:「パンヤオ」の舞踊)



た学生達の踊りとは思えない素晴らしい舞踊を披露していただきました。その他、当事業団スペイン語講師湯澤ルースさんと熊本在住のメキシコ人4名による「メキシカン・ダンス~死者の踊り~」の披露や熊本で活動しているサルサダンスグループ「アマンダ」によるサルサダンス、熊本在住の中国籍住民グループ「パンヤオ」による中国民謡等の披露、そして交流ゲームのひとつとして FOK(Filipino Organization of Kumamoto)の提案でバンブーダンスを行い、参加者を巻き込みながらのステージになり全体的に外国人の人達によるステージ披露での盛り上がりで、例年にない音楽やダンスによる異文化交流ができたのではないかと思います。

参加者総数が300人を超え、嬉しさの反面、会場の広さの限界や、受付混雑時の対応等についての課題等いくつかの反省点もありました。今回の課題として挙げられた内容を検討し来年のイヤーエンドパーティは外国人の方々はじめ日本人の方々がまた参加したくなるようなより良いイベントになるよう学生ボランティアと作り上げていきたいと思えます。



熊本大学国際交流サークル C3 では、1 月 13 日に KIF 若者国際交流チャレンジ助成金を利用し『留学生とお正月体験』と題したイベントを開催しました。このイベントで、留学生と日本人学生が書き初め、餅つき、正月遊び、初詣という 4 つの日本のお正月の代表的行事を体験しました。

書き初め体験には約 20 名の留学生が参加し、新年の抱負や自国の言葉などを書き初めました。漢字文化を持つ中国出身の留学生は皆達筆で、慣れた手つきで書き初めを行っていました。欧州系の留学生は初めての習字体験である人が多く、漢字やひらがなの他に水墨画のような絵を描くなど、自由に楽しんでいました。日本人学生も、書き初めをするのは小学生の時以来だという人が多く、懐かしい気持ちで参加しました。一人一人個性的で発想豊かな作品が完成し、留学生もとても満足そうでした。様々な国の留学生が参加したことにより、漢字やひらがな、ハングルなど互いの言語文化も学ぶことができました。完成した書き初めは、日本でお正月を過ごした良い記念として記憶に残ると思います。



(書き初め体験の様子)

餅つきは今回のイベントの目玉であり、予定よりも多い 50 人以上の参加者が集まりました。当日はとても天気が良い



(餅つきの様子①)



(餅つきの様子②)

く、絶好の餅つき日和でした。餅をついたり丸めたりと皆が積極的に参加していました。大きな掛け声をかけながらの餅

つきはとても賑やかな雰囲気、特に男子留学生は力も強く、とても早く上手に餅がつきあがりました。最近では、あまり見る事ができない杵と臼を使った餅つきだったので、日本の学生も盛り上がっていました。スマートフォンでその様子を撮影する留学生も多く、イベント終了後 SNS にもたくさん投稿されていました。また、醤油やきな粉、あんこなど様々な味を用意することができたため、つきたてのお餅を皆で美味しく食べ、余ることなく完食しました。餅つきをする際

は、食材の準備や杵・臼などの道具を揃えるのが大変ですが、(株)action lab の草部様や農家の宮下様御一家にお手伝いいただいたおかげで、スムーズに安全に餅つきを行うことができました。

正月遊び体験では、コマ回し、凧揚げ、カルタ遊びを行いました。コマ回しと凧揚げは留学生に手本を見せるため、C3 部員が事前に練習を行いました。初めて経験する留学生にとっては難しかったようで、実際に成功した学生は少なかったですが、皆楽しそうになんでもチャレンジする姿が印象的でした。また、イベント当日はとても寒かったので、室内で遊ぶことができるカルタ遊びは大盛況でした。日本語を勉強中の留学生にはカルタは少し難しいのではないかと思います。すぐにルールを理解して楽しんでいる様子でした。ゲーム感覚で日本語のリスニングの練習やひらがなの読みの練習ができるということで、人気がありました。餅つきの準備をする間に正月遊びや書き初めなどの行事を同時に行なったことで、参加者も退屈することなく時間を有効に使うことができました。

餅つき後には、熊本大学留学生寮のすぐ近くにある宇留毛菅原神社へ初詣に行きました。手水や参拝の正しい作法や神社の説明を C3 部員が行ったことで、良い学びの場になりました。皆それぞれ自分の新年の願い事や昨年の感謝の気持ちを心に浮かべながら、真剣な表情で参拝していました。

今回支援していただいた KIF 若者国際交流チャレンジ助成金により、通常であれば参加費が必要になるイベントを無料で開催することができました。それにより、多くの留学生や日本人学生が気軽に参加し、日本文化を通じて交流を深めることができました。留学生にとっては書き初めや餅つきなど、初めて経験することばかりだったので、日本のお正月を体験するととても貴重な良い機会になったはず。また、多くの留学生が SNS に今回のイベントの様子を投稿したことで、海外に向けて少しでも日本文化を伝えることができたのではないかと思います。日本人学生も、最近では伝統的なお正月行事を行うことは少なくなってきました。そのため今回は日本人学生にとっても、昔ながらのお正月行事を体験し、留学生に説明をしたことで、日本の文化を見直し学びきっかけとなりました。

私たち熊本大学国際交流サークル C3 は、留学生支援と国際交流促進を目的とする学生団体です。一年を通して多くのイベントや支援活動を行っています。これから、今回のようなイベントを通して、日本の伝統的な素晴らしい文化を海外へ向けて発信していくこともできればいいと思います。



(参加者とみんな)

熊本大学国際交流サークル C3 Facebook
<https://www.facebook.com/kumadaic3>

未来のために

ここでは、私たちの未来を考える上でとても重要な視点である共に生きる社会、多文化共生について専門家である羽賀友信さんにシリーズでご寄稿いただいています。



筆者：羽賀 友信さん

- ・長岡市国際交流センター「地球広場」センター長
- ・新潟 NGO ネットワーク顧問
- ・JICA 地球ひろば 国際協力サポーター
- ・長岡市教育委員
- ・JICA 専門家
- ※当事業団多文化共生アドバイザー

グローバル時代の青少年教育とボランティア活動

■世界を動かす原理

国連で採択され 2000 年から 2015 年で実行された MDGs（ミレニアム開発目標）が終了し、世界の貧困を半減させるという目標をクリアすることができました。さらに、2016 年からは、全ての人によりよい世界を一そんな願いを込めて掲げられた 2030 年までの指標となる SDGs（持続可能な開発目標）が採択されました。この目標を受けて国内法が整備され、世界のそれぞれの国がひとつのゴールを目指して活動を行っています。この国内法の整備により企業及び地方自治体、個人がアクションを起こすこととなります。グローバル化の説明をするにあたっては、世界の共依存関係とこの指標が原理となって世界を動かしていることを知る必要があります。

■問題解決の方法

グローバルで多様な問題を解決するには、グローバルコミュニケーションとよばれる能力が求められます。相手の優先的価値観をうまく引き出す「ファシリテーション技術」、それを踏まえて相手に伝える「プレゼンテーション技術」、その後ろにある「多文化・多様性・多言語を活用する技術」です。日本の子はディスカッションが苦手とされています。言語化が大きな壁になりやすく、自分の意見をはっきり言うことが苦手です。また情緒的に物事を理解しやすく、ディスカッションで否定されると人格を否定されたと勘違いして泣き出したりする子が多く見られます。多民族、多様な価値観の世界では、論理的なディスカッションが求められ、はっきりした意見とその論拠を相手に伝えることが大切です。意見を否定されても論拠の競い合いであり、人格の否定ではないと理解させなければなりません。

■世界を知り、日本を知る

一方で自分が育った日本の文化を否定するのではなく、客観的にとらえて自分のアイデンティティとすることも大切です。世界を知るとは新しい物差しを手にし、日本、自分を知る大きなチャンスとなります。そのときに「なぜならば」という説明をきちんとできることが大切です。

■セルフエスティーム（自己肯定感）を高める

OECDの調査では、日本の子は自己肯定感が他国に比べ著しく低いという結果が出ています。自己肯定感を持つことで、全力で生きている自分を肯定し、わからないということも素直に受け入れ率直に質問ができます。同様に身を張ることなく率直な返答ができるようになります。このセルフエスティームの根底にあるものは、5歳で感じ始めるといわれる死への恐怖です。これを克服するために社会貢献を行うことで自分を大切な存在として認めることができるといわれています。セルフエスティームが低いと自分のあるがままを認められず、見透かされたと感じると攻撃性を帯びる傾向が強くなります。自己肯定感を高める社会教育は、人材教育において非常に大きな意味を持ちます。

■ボランティア活動と使命感が拓く未来

社会貢献の一環としてボランティア活動を始めても、いい加減な気持ちでは通用せず、あるべき姿を考えると次第に「使命感」が芽生えます。また、被災者などに使命感を持って接し続けるうちに継続性、専門性を高めたいと思うと「志」に変化します。そういう人材を多く育てることが地域コミュニティの活性化や、世界との連携の可能性に変化すると思います。



世界を知る ～It know the world～

このページでは、「世界を知る」をテーマに独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流・協力分野で活躍している皆様のご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

「イタリア人に間違えられて～「知る」ことの大切さ～」

青年海外協力隊OB 竹田 憲弘(たけだ のりひろ)さん
(平成 28 年 1 月～平成 30 年 1 月 ルワンダ派遣 職種：コミュニティ開発)

青年海外協力隊としての 2 年間の活動を終えて、先月帰国しました。城下町を市電が走る街並みや、県全土を支配している黒いクマを見るたびに懐かしさを覚えています。私が派遣されていたのは、アフリカのルワンダにあるムシャ(Musha)という農村部。ルワンダは国土が九州の 70%ほどしかない小国です。ムシャまでは首都のキガリ(Kigali)から車で東に 1 時間ほど。都市部には比較的近いのですが、近所には山羊や牛があふれ、未舗装の道路は赤土で覆われ、「千の丘の国」と呼ばれるルワンダの絶景を堪能できる、風光明媚な地域です。



(ルワンダは起伏が激しく「千の丘の国」と言われています)

赴任したてのとき、近所の小学校を訪れました。めったに見ることのない外国人の私に、生徒たちは興味津々。あっという間に子どもたちに囲まれ、その中のひとりがこう聞いてきました。「Are you Italian? (あなたはイタリア人ですか?)」うーん、惜しい(何が)。「ちがうよ、日本人だよ」と言うと、「へー!」と言って目を丸くしていました。いやいや、こっちの方がびっくりだよ。思いっきりアジア人の顔をしてるのに、まさかヨーロッパ人と思われるなんて……。でも、それも仕方ありません。日本人であれば幼い頃からテレビやインターネットを通じて、海外の様子を知ることができます。しかし、ルワンダ農村部の一般家庭ではラジオくらいしか情報源がありません。携帯電話はほとんどの人が持っていますが、インターネットで日常的に情報収集している人はごくわずか。

Whats app (LINE のようなメッセージアプリ) や Facebook はよく使われていますが、Google で



(携帯の小さな画面で食い入るように映画を見る子供達)

検索したりニュースサイトを見たりするのは一部のエリート層だけ。そのため、特に村で暮らす子どもたちは「外の世界」と接する機会が非常に少ないのです。

そんなルワンダで 2 年間暮らしながら、「自分にできることはなんだろう」と毎日考えていました。学校の生徒や先生たちと協力しながら衛生啓発活動に取り組みながらも、成果が見えづらいため「専門性もなければお金も出せないボランティア。自分はなんて無力なんだろう」と痛感する日々。最終的には学校が自発的・継続的に啓発活動に取り組める組織づくりに成功し、住民向けのイベントを開催するなど一定の成果を得ることができました。でも、それよりももっと「価値のある取り組みができた」と実感できたことがあります。それが「日本人との交流の場をつくること」。私はブログを運営していて、ルワンダでの生活や協力隊活動の様子を発信していました。それを見た方々が「ムシャに行ってみたい」と連絡をくれるようになったのです。2 年間で案内した人数は約 40 名。その多くは大学生で、彼らと一緒に学校を訪問したり、ルワンダ人の家にホームステイしたりしてもらうことで、現地の方々と触れ合う機会をつくることができました。



(日本人大学生と小学校を訪問)

「世界には自分の知らないことがたくさんあるんだ!」と知ることは、好奇心を養い、一歩踏み出す力につながります。「外の世界」と接する機会の少ないルワンダの人たちが外国人と触れ合うことで開かれる可能性は、とても大きなものだと思っています。私は一旦帰国しましたが、近々またルワンダに戻って、日本人向けのスタディツアーを運営する予定です。ひとりでも多くの日本人にルワンダに足を運んでもらって、互いを知り、双方の「世界」を広げてもらえるよう、尽力していきたいと思っています。

以下のサイト・SNS で情報発信しています。チェック・フォローしていただくとありがたいです!

- ・個人ブログ『[タケダノリヒロ.com](http://takeadanorihiro.com)』
- ・ルワンダ情報専門サイト『ルワンダノオト』
- ・Twitter : [@NoReHero](https://twitter.com/NoReHero) (個人アカウント)、
[@Rwandanote](https://twitter.com/Rwandanote) (ルワンダ専門アカウント)

ちよつと Japanese Tip
日本語

NPO 法人日本語サポートあさ
代表 小川 ひろみ さん

「あけましておめでとうございます」「ことしもよろしくおねがいます」

毎年1月になるとどこでもこのあいさつが 頻繁にきかれます。ところが、この何でもない新年の普通のあいさつで、日本語の教室は毎年、混乱しています。

学生：「あけまして」って何ですか。

私：新しい年になって、それでおめでとうの意味です

学生：じゃ、「けっこんしておめでとう！合格しておめでとう！」ですね

私：んんん、それは・・・

学生：「ことしもよろしくおねがいます」って何をどうお願ひしますか。「よろしく」ってなんですか

私：んんん、それは・・・

答えられない質問ばかりで最後はいつも、「あいさつだから覚えてください」と。

そしてさいごに「じゃ、今年も勉強がんばりましょう」で一件落着と思いきや！

学生：先生、私はがんばらなくてはいけないほどだめですか。

あああああ・・・毎年、何年たっても日本語教師の大奮闘は続きます

きふプロ インターンシップ生、サポートセンターボランティアの皆さんが繰るKIFのアクティビティ

インターネットでもっとたくさん紹介しています。
<http://blog.goo.ne.jp/kifblo>

みなさん こんにちは。

私は熊本市国際交流振興事業団

韓国インターン生のイム ジャンハクと申します。

先日、花園公民館で「キムチ作り講座」が行われました。

韓国人の先生が、参加者の皆さんと楽しく交流しながらキムチを作る順番や材料等を教える講座です。そのキムチという食べ物は韓国人なら必ず食べる物ですごく辛いですが、辛いのが苦手な人でも砂糖を入れれば誰でも食べることができます。

この講座のお手伝いをする前は参加者が少ないのかなあと思いましたが、予想よりも沢山の参加者の皆さんに来ていただいてとても嬉しく感じました。

次にまた開催する時があれば、是非ご参加よろしくお願ひします！



☆平成30年度賛助会員募集！☆

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団では賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。

会員の方々には、事業団の機関誌『ニュースレターくまもと』の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。

- ①個人会員 一口 2,000 円/年(一口以上)
- ②団体会員 一口 10,000 円/年(一口以上)

平成 31 年 3 月までの会員期間となります。

<入会のお申し込み・お問い合わせ>

一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団事務局
〒860-0806 熊本市中央区花畑町 4-18 熊本市国際交流会館
TEL:096-359-2020 FAX:096-359-5783
E-mail:ad-info@kumamoto-if.or.jp

継続・新規ご加入 ありがとうございます。

(平成 30 年 1 月 31 日までにご加入いただいた皆様)

〔個人〕50 音順 (敬称略)

・稲田 福子 ・寺岡 雅子 ・金子 政利

私たちは熊本の国際交流活動を応援しています！

〔法人会員〕

- ・(一財)熊本市駐車場公社
- ・アジア希望キャンプ機構
- ・熊本学園大学
- ・熊本シティエフエム
- ・熊本日独協会
- ・熊本日米協会
- ・崇城大学
- ・ホテル日航熊本
- ・有限会社パラカロ



- 阿蘇くまもと空港より 車で 45 分
- 熊本交通センターより 徒歩 3 分
- 熊本市電停花畑町より 徒歩 3 分

from Aso-Kumamoto Airport-
45minutes by car
from Kotsu Center-3minutes walk
from "Hanabata-cho"
tram stop-3minutes walk

熊本市国際交流会館 国際交流サポートセンター

開館時間 午前 9 時～午後 8 時

多文化共生オフィス TEL:096-359-4995 (直通)

休館日 第 2・第 4 月曜日、年末年始 (12 月 29 日～1 月 3 日)

Civic Support Center for International Exchange and Cooperation
Kumamoto City International Center

Service Hours 9:00a.m. -8:00p.m.

Multicultural affairs office Phone:096-359-4995(Dial-in)

Closed: 2nd and 4th Mondays of each month, Dec. 29th-Jan. 3rd

★平成 27 年 10 月 1 日より交通センター付近は熊本城ホール建設工事中です。シンボルロードが臨時バスターミナルとなっています。